

# 平成 25 年度 第 2 回仙台市環境審議会 議事録

平成 25 年 11 月 28 日(木)

13:30～15:00

仙台市議会第一委員会室

## I 次第

1 開 会

2 新委員紹介

3 議事・報告事項

(1) 「杜の都環境プラン」の定量目標の進捗状況等（平成 24 年度実績）について

(2) 構想・計画段階における環境配慮のあり方に関する検討状況について

(3) その他

4 閉 会

## II 出席委員数

出席 15 名

欠席 10 名（鈴木陽一副会長、阿部欣也委員、伊藤浩子委員、金久保佐知子委員、佐藤由紀子委員、嶋中貴志委員、松八重一代委員、間庭洋委員、柳沼真理委員、吉岡敏明委員）

## III 議事・報告事項

司会(企画調整係長)	議事進行に際しては、仙台市環境審議会の組織および運営に関する規則第 5 条第 1 項に基づき、西村会長にお願いしたい。
議長(西村会長)	それでは議事・報告事項を進めていく。 会議の公開に関して、個人のプライバシーに関すること等で非公開の必要がある場合以外は、会議は公開することとしている。今回もそれらに抵触することはないので公開で開催する。 議事録の署名について、会長と出席委員 1 名の署名をもって正式な議事録とすることとし、今回の署名は杉山ふじ子委員にお願いしたいがいかがか。
杉山委員	「了解」
議長(西村会長)	それでは、議事・報告事項(1)に入る。事務局より説明いただきたい。
事務局(環境部長)	資料 1-1、1-2、1-3、追加資料①、②に基づき、「杜の都環境プラン」の定量目標の進捗状況等（平成 24 年度実績）について説明

議長（西村会長）	ただいまの事務局からの説明について、ご質問やご意見等はあるか。
工藤治夫委員	<p>震災以後、火力発電への依存が高まり、化石燃料使用量の増加から、CO2（二酸化炭素）の排出量が増えている。震災復興など各産業面におけるエネルギー使用増の背景もあるが、まずは市民生活におけるエネルギー消費の削減に対する指針をアピールし、市民運動として対外的に誇れるものとしてはどうか。</p> <p>車によるCO2排出量の問題もある。例えば、マイカーに電気自動車の導入を促進することやカーシェアリングを推進するなどしてはどうか。</p>
事務局（環境部長）	<p>地球温暖化対策推進計画の改定作業が、震災の影響で中断している。早期の作業再開を目指しているが、その中でCO2排出削減目標を設定するにあたっては、それがこれからの市民生活や地域づくりにおいてどういう意味を持つものであるかといった点を、市民の皆様にも分かりやすくお伝えしながら、改定作業を進めたいと考えている。</p> <p>カーシェアリングについては、集合住宅に対して、駐車場業者が電気自動車などを使ったカーシェアを提案するような動きも出始めている。環境局としても、今後この分野における動向を注視しつつ、関係部局との連携等に配慮してまいりたい。</p>
工藤治夫委員	<p>西欧では、指定した区域にガソリン車にて立ち入る場合に入場料のような料金を課すなどの環境施策を行い、結果として公共交通の採算性やCO2の排出抑制に効果があったと聞いている。仙台市でもそのような施策に関する議論はされているのか。</p>
事務局（環境部長）	<p>国土交通省が制定したエコまち法などを踏まえ、コンパクトな都市構造を目指しながら、自動車利用を減らそうという基本的な方向性は庁内でも合意されている。指摘いただいた点については、関係部局と議論を深めてまいりたい。</p>
渡辺浩文委員	<p>資料1-3の5頁の一番下の二酸化炭素排出量の円グラフについて、民生部門として家庭部門と業務部門が各々20%、併せて40%と大きな割合を占めているが、直上の文章中に「家庭での給湯・暖房用などのエネルギー消費が多い」という記載がある。この部分を別途グラフ等に示すことはできないか。それによって、より環境に対する意識が高まると考える。</p>
事務局（環境部長）	<p>グラフ等で示すにはより詳細なデータが必要となる。その収集方法を含め、より伝わりやすい示し方を検討したい。</p>

伊藤絹子委員	海岸防災林、海岸防潮堤の整備にあたり、周辺環境の変化はどうなるのか。また、それに対する配慮はどのように考えているのか。
事務局(環境都市推進課長)	整備にあたっては、環境配慮を行うべく有識者のご意見を参考に関係部署と調整を図り進めているところである。
花輪公雄副会長	低炭素都市づくりに際し、市民一人一人がエネルギーを意識して生活することは非常に大切と考えるが、日常生活におけるエネルギー消費削減や補助の取り組みだけでは限度がある。ボトムアップも大事だが、トップダウンにて、例えば地下鉄東西線の利用促進も兼ねてパーク&ライドを活用してもらうなど、市民を施策誘導することが必要と考える。現状の取り組みに加え、新たに大きな施策や方針を掲げ、仙台市としての指針を設けてはどうか。
事務局(環境部長)	今後改定を予定している地球温暖化対策推進計画においては、公共交通を利用しやすいまちづくりを目指すといったことも基本的な柱立ての1つになるものと考えている。只今のご意見についても、関係部局と十分に検討してまいりたい。
中静透委員	定量目標の項目のひとつである身近な生き物の認識度などは、資料を見ると調査開始時点から低下傾向にある。地域戦略を策定し実施していくうえでも身近な生き物の認識度向上は大変重要である。認識度向上につながる具体的な取り組みをお願いしたい。
事務局(環境都市推進課長)	地域戦略については、国の指針に基づき、都道府県では、ほぼ策定ないし着手しており、政令市でも着手しているところが出てきている状況である。本市でも戦略策定の検討を進めているが、現状では、震災による生き物を取り巻く環境の変化も大きいと、どのように収束するのかを見守る必要があると考える。田畑の除染作業も目途が立ち、元の環境に戻ってきている現状もあるため、そういった状況を鑑みながら、戦略の検討や策定の過程の中でも、生き物との関わりをアピールしながら、認識度の向上に努めてまいりたい。
新野貴久子委員	<p>定量目標の2～4に関して、プラスチック類のゴミを分別する際、環境負荷や水質汚染の観点から、汚れの程度によって、資源ゴミ、家庭ゴミに分けるのかを明確化してはどうか。</p> <p>ペットボトルのラベルを取らずに回収できる技術もあるので、仙台市でも導入に向けた検討をお願いしたい。</p>

事務局(廃棄物事業部長)	<p>プラスチック類のゴミを分別する際に、環境への影響やリサイクルできる状態にする手間を考え、洗浄等できることはしていただくようお願いしている。汚れの程度によっては、水道水だけで汚れがとれるものもあれば、それだけでは取れないものもあり、漬け置き洗いで汚れが落ちる程度のもは洗ってリサイクルをお願いしているが、具体的に分けるのは難しいところがある。</p> <p>現状、仙台市の処理施設では処理段階でペットボトルのラベルをはがすことができる設備はないため、ペットボトルを処分する際はラベルをはがすようお願いしたい。今後、技術革新により、そうした技術が容易になれば、設備の導入を検討してまいりたい。</p>
議長(西村会長)	<p>議事進行の都合上、次の議事・報告事項(2)に入る。事務局より説明いただきたい。</p>
事務局(環境都市推進課長)	<p>資料2-1、2-2に基づき、構想・計画段階における環境配慮のあり方に関する検討状況について説明</p>
議長(西村会長)	<p>ただいま事務局から説明があったが、検討会のアドバイザーでもある中静委員から何か補足等はあるか。</p>
中静透委員	<p>従来は行っていなかった構想・検討段階での情報公開と、住民意見の聴取、公共事業や民間事業においても複数案を提示させて行うことなどが大きなポイントであるが、これらをどのように進めるのか。その際に考える課題をどう解決していくかを現在検討している。</p>
議長(西村会長)	<p>戦略アセスメントに基づき環境配慮に努めてきたところであるが、環境と開発が対立する構図ではなく、開発することが環境にとってもよいものとなるような体系作りを目指している。早期に情報公開や意見を聞くことで、開発が環境にも配慮できるという好循環につなげるためにも、皆様から、ご意見やご指摘はないか。</p>
伊藤絹子委員	<p>住民から広く、もれなく意見を聴取するのは難しいことと思うが、意見を言いやすい場の調整が図られるよう仙台市の誘導・リードをお願いしたい。</p>
工藤治夫委員	<p>行政・住民・民間事業者の各当事者間で見え方や切り口は変わると思うが、仙台市として環境配慮はもとより、その他の利点も併せたビジョンを示し、アピールしてはどうか。</p>


事務局(環境都市推進課長)	ただいまのご指摘・ご意見は今後の参考にさせていただきたい。
渡辺浩文委員	住民の方から意見を伺う中で、制度の枠組みを超えたところの意見やアセスメントの項目外・評価外の意見が出ることも考えられる。そういった場合にどのように対応、調整するのかを考えておくべきでは。
事務局(環境都市推進課長)	ご指摘のとおり、項目を見ると専門的な分野に絞り込まれている。項目に限った中では意見も限られてしまうと考えている。今回意見を伺う際には、項目外、評価外となる部分も含めて幅広く意見聴取を行うことを考えている。
議長(西村会長)	次に、議事・報告事項(3)その他として、事務局より何かあるか。
事務局	特にございませぬ。
議長(西村会長)	議事・報告事項(1)のご意見も含め、皆様からなにかあるか。
花輪公雄副会長	議事・報告事項(1)の報告書を見ると、仙台市の状況のみを記載しているが、どうしても時系列になってしまう。前年と比較することはもったもであると思うが、他の自治体の取り組みや状況と比較することで、一概に単純比較は難しいとは考えるが、より現状を把握しやすいのではないか。 ・他都市が行う取組みを伝えるなど、市民が環境施策について知りえる手立てがもっとあってもいいのではないか。
事務局(環境部長)	例えば仙台市が指定都市の中で、どのようなポジションにあるのか、他都市の状況などと比較し、市民に伝えることは必要と考える。CO2削減に関する数値などは、各自治体によって、算出根拠が違うため、単純な比較が難しい面もあるが、市民の取り組みや頑張りがどのような結果につながっているのかといった点を分かりやすく伝える努力をしまいたい。
北川尚美委員	震災以後、市民のリサイクルに対する意識が震災以前よりも低下しているように感じる。子供に限らず、大人でもごみを分別せずに捨てている状況を目にすることが増えたように感じる。
事務局(廃棄物事業部長)	ごみ有料化の際は、各戸に分別方法を記載した冊子を配るなどの周知を行ったが、その後は予算の関係もあり、新たに市民となった方を除き、数年おきに個別周知を行ってきた。限られた予算の中で効果的にPRしてまいりたい。

<p>佐藤わか子委員</p>	<p>今年度、小学生4,5年生を対象としたリーフレットを各学校に配布するなど、小さいうちからごみの分別、リサイクルの意識向上につながる取組みを今後も図ってまいりたい。</p> <p>ごみ有料化の際は、かなりの数の地域に職員が赴いてPRを行い、結果として市民のごみの分別やリサイクルに対する意識が高まったことを覚えている。震災時は、非常時ということもあり、ごみの分別を省いて処分したこともあって、それ以降市民のごみの分別やリサイクルの意識が弱まったと今になって感じる。改めてごみ有料化の際に行った際と同等の手厚い周知を行うことは難しいとは思いますが、原点に帰り、危機意識を持って再度意識向上に努めることが目標達成のためには必要ではないか。</p>
<p>事務局(廃棄物事業部長)</p>	<p>市民のごみ分別の意識向上につながる効果的な周知方法を検討してまいりたい。</p>
<p>工藤治夫委員</p>	<p>私が生まれた頃に比べて、今の日本人が1日あたりに消費するエネルギーは著しく増加していると思う。特に電気の使用量は格段に増えた。これを意識して生活を見つめなおし、省エネの生活スタイルを打ち出すなど、検討してはどうか。</p>
<p>議長(西村会長)</p>	<p>ほかにご質問はないか。</p>
<p>新野貴久子委員</p>	<p>資料1-2の5頁に「緑の質を高める」という記述があるが、質の高い緑とはどういったものか。</p>
<p>事務局(環境部長)</p>	<p>緑そのものが、景観の向上に貢献するとか、生物多様性に貢献するとか、本来の価値を高め、暮らしの豊かさにつながるようなものへと、その存在意義をさらに高めるといった意味合いと理解している。</p>
<p>議長(西村会長)</p>	<p>他に質問等なければ、これで審議会を終了する。円滑な運営にご協力いただき感謝する。</p>

この議事録について、会議の内容と相違がないことを認める。

平成26年5月7日

仙台市環境審議会署名委員

会長 西村 修 

委員 杉山 ふじ子 